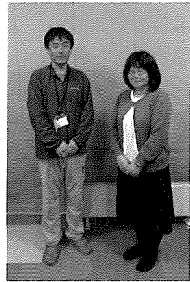




いとるの新しい仲間たち ～新入職員ご紹介～



大滝健一

2月からお世話になっております、大滝健一と申します。これまでの間にも、利用者様からいろいろな発見、気づきをいただきました。毎日新鮮な気持ちで過ごさせていただいています。よろしくお願いいたします。

小山明美

食に関わる仕事をして思う事は「食と人は寄り添っている」という事です。

食べる事で元気になったり、時に大切な記憶として残ったりします。そんな場面を体験して頂けるような食事を提供していきたいです。

安達隆臣

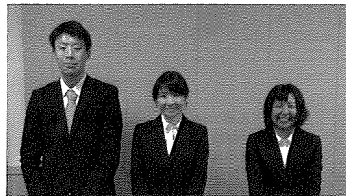
4月から配属になりました安達隆臣です。利用者の皆さんと毎日楽しく過ごしたいと思っています。笑顔で元気に頑張ります。よろしくお願いいたします。

村山真裕子

4月よりお世話になります、村山です。ご利用者の皆様と信頼関係を築いていけるような支援を目指します。よろしくお願いいたします。

飛田亜希菜

4月から入職した飛田亜希菜と申します。この度らんに配属になりました。分からないことが多く迷惑をおかけすることがありますが、先輩方に聞きながら学びに繋がっていきたいと思います。また、子ども達と一緒に元気に過ごしたいです。



吹原和美

より多くの方々と出会い学べるチャンスとワクワクしています。初めに帰り「人ってあたたかいな」と思っていただけのような関わりを目指し、努力していきたいと思えます。ご指導よろしくお願ひ致します。

齋藤香織

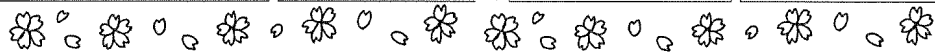
初めまして、齋藤と申します。4月に若竹寮から異動して参りました。初めてづくしで緊張しています。至らない点もあると思ひますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願ひ致します。

三浦江理花

若竹寮から異動してまいりました。三浦江理花です。分からないことだらけですが、笑顔で皆さんと関わりたいと思ひています。どうぞよろしくお願ひ致します。

荒川益美

この度若竹寮よりの異動でさらに配属になりました。利用者様の元気に負けないよう、趣味の水泳で体力作りをしています。どうぞよろしくお願ひ致します。



いとるらいふ通信

(社福) みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日：2018年4月

4月となりました。うらかな春の日差しが心地よく感じます。さて、4月といえば新生活の始まり！新たなことに期待に胸を膨らませている人も不安を抱いている人も多いのではないのでしょうか。そんなときこそ笑顔を忘れずに！それでは新年度初めてのりとるらいふ通信です！



～平成30年度各部門年間目標～

新年度を迎えました。
今年度の各部門年間目標を発表させていただきます。

生活介護事業所きら

「利用者様一人ひとりの強みを活かす為に」

- (1) 強みを活かした支援をします。
- (2) プログラムの提供をします。

短期入所事業所ぶあん

- (1) 稼働率100%を目指します。
- (2) ご利用者様、ご家族にとっての安心安全な受入れ環境を整備します。
- (3) 職員の支援の質を高め、ご利用者様の生活の質の向上を目指します。

生活介護事業所とも

- (1) 安心・安全な支援の土台作りをします。
- (2) とも「らしさ」の確立を目指します。
- (3) 情報発信をしていきます。

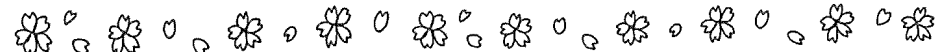
放課後等デイサービス事業所ららん

- (1) 平均稼働率100%を目標にします。
- (2) 職員の支援力を強化します。
- (3) 日曜イベントの再開を目指します。

放課後等デイサービス事業所にご

- (1) 個別ニーズに応じた支援と活動選択の拡大を目指します。
- (2) 円滑な利用開始に向けた利用構築をします。
- (3) 高齢部との連携を強化します。

今年度もりとるらいふをどうぞよろしくお願ひいたします。



共に暮らす・共に生きる

社会福祉法人みんなていきる 障害福祉事業部長 丸田明久

“みんなていきる”

～共生社会＝マルチに支える仕組みへ～

私たちは、共生社会への動きに真摯に向き合って行きたいと思えます。法人の名称そのものの『みんなていきる』の名前の通りです。そして、原点である「“りとるらいふ”の想い」そのものとしてです。

地域包括ケア、地域での支え、地域での暮らし。誰もが地域で暮らせるように。決して簡単ではありません。しかし、まず始めていくことからでしょう。そのために、私たち福祉職の分野でもエキスパートはもちろん大切ですが、一方で、マルチプルな人材を育てることもとても大切になります。そもそも、地域はマルチなものですし、その多様性が地域を豊かにします。その多様な方が住む地域を支えていくということです。

施設やサービス、建物を整備しても、そこを活用できる方は、全体でみれば一部でしかありません。では、その施設を旗艦として、いかに地域をマルチにサポートしてあげるのかということへのアクションが必要でしょう。すなわち、私たちがいかにもっと地域に出て、貢献できるかということが重要になるのでしょう。

育てる

地域をマルチに支えていける人づくりのために、必要な「変化」を行っていきます。人が人を支えていく。専門家だけではなく、地域と一緒に、ともに支える「地域の支え手」をみんなていきるで育てていきたいと思えます。みなさまぜひひお力をお貸しください。

これから支えを必要とする方はますます増えます。一方で、少子高齢化もあり、支え手が減少していく時代となってきています。『では、どうしていくのか?』です。

今いる職員を、そして新たな職員を、そして地域での支え手を“皆で育てる”ことを“意識”することからでしょうか。真の連携・連動を作り出すためにも、その最大の財産である“ひと”を育てていくことです。ご指摘・ご指導・ご意見は歓迎します。一方で、そのお話が「職員や支え手を育てることに本当につながるか否か」も同時にご検討いただけると幸いです。

なぜ福祉をはじめとした“ひとを支える仕事”に人が集まらなくなったのでしょうか。確かに待遇はあります。一方で、人が人に対する、いわゆる「感情労働」と言われること自体の背景も厳然とあります。大切な人が相手であるがゆえの、厳しい“対応の現実”がです。

地域を、ひとを支える、そしてその担い手を育てる。まずは専門機関同士が連携をしっかりと取ることが第一ですが、一方で、それだけでは困難です。介護の分野でも、地域で高齢の方を支える『地域支え合い事業』が始まります。同じように、地域で過ごしている方を地域で支えることは『住みながら地域で生活』を継続するために大切です。

“ひと・地域を支えることへの喜びを感じられる”、新たな職員を、地域を共に創りましょう。お力をお願いいたします。

はじめに

寒く、雪も多かった冬がおわりを告げ、春が来ました。あれだけ寒かったのに、桜の開花が全国的に例年より早いという変化の大きい春となりました。季節の変化が早く感じるように感じますが、やはり節目は様々に大切ですね。節目という4月のスタートにあたり、改めて私たち「りとるらいふ」を考えて見たいと思えます。まずは、原点となる想い(理念)からです。私たち「りとるらいふ」の想い＝理念”です。

“ご本人には「地域で暮らす」ための支援を”
“ご家族には「地域で暮らす」ための安心を”
“地域には多様な人々と暮らす喜びを”

この3か条こそがスタートした時からの想いであり、揺るぎない基本スタンスです。

注目していただきたいことは、この想い(理念)には、「子ども」「障害」「高齢」などとはうたわれていません。【誰も】なのであり、すなわち【誰もが主人公】であるということです。

様々に生き辛さを抱える方がいらっしゃいます。誰が大変かという論争はナンセンスであり、誰もが大変なのです。子どもの貧困がクローズアップされ、その背景にある親の貧困、貧富の差、虐待やいじめ、「8050」問題…。少し前に“ネットカフェ難民”と騒がれた状況も大きな変化はなく、少し異なったステージに入っています。

様々な困難・困難があり、それらを支える黒子または伴走者であること、ともに歩むことが私たちのミッションです。それは合併して今日に至る、【みんなていきる】という法人の名前にも繋がるものであり、法人として歩む道がすなわち「原点」そのものなのです。

変化

さて、私たちの法人も新たな体制や事業所が動き出ししました。1月の通信でもお伝えしましたが、様々に【変化】がキーワードになっています。国を見ても、医療・介護・福祉の同時改訂となった今年度、ここでも【変化】が出ています。基本は【地域全体でどう支えていくのか?】ということでしょう。

今までが良いか悪いかではなく、この先を見据え、どうあるべきかを様々な場所や場面で考えていく必要があります。【変化】に嫌悪感を抱く方もおられるでしょう。確かに【変わらないことがよい】ということもあります。一方で【時代や環境で変化をしなければならぬこと】もあるものです。

私たちが変化させないものは「りとるらいふの理念」です。一方で、どう活動するか、どのように事業を進めるかは、時代や環境で変化をさせていく必要があるのです。

全てに満点の回答が出せるならば、それがbestであるのは確かでしょう。しかし、そもそも全ての“ひと”や“もの”に【満点回答】は非常に困難です。様々な財源や資源(リソース)には限りがあり、それをその時その時にマッチしたものとして対応することが必要になります。【選択と集中】、“無い袖は振れない”のですから。

変化をすると最初は「うまく回らない感」が生じることは否めません。しかしその期間(転走期間)を経なければ、新たなものは産まれないのです。

♪卒業パーティーを行いました♪

ららんとにこでは3月にご卒業を迎えられたご利用者様とご家族をお招きし、3月11日に宇喜世にて児童卒業パーティーを開催いたしました。式典では、ご卒業される皆様へ感謝状とプレゼントを贈呈させて頂きました。感謝状はスタッフが一人おひとりの姿を思い浮かべながら文章を作りました。また、プレゼントは「社会に出て頑張ってほしい」という願いを込めて、男の子へはベルト・水筒、女の子へはヘアゴム・トートバッグを贈らせていただきました。昼食会前にはさら職員お手製の樽で鏡開きを行いました。卒業生の皆さんは初めての鏡開きに、ドキドキの様子ではありましたが、「せーのっ!」の掛け声の後、これからの皆さんを応援するように樽の中の風船が飛んでいきました。祝宴での催し物では、ららんやにこでの活動を動画にしてのプロジェクター上映や、保護者様へのインタビューも行いました。プロジェクターを見ながら「こんなことがあったね」と思い出話に花が咲き、盛り上がりました。

卒業される皆様には、たくさん笑顔と思い出を頂きました。今まで本当にありがとうございました。またどこかでお会いした際には声を掛けてください。



「ども」がついにオープンしました! ～セールスポイントは?～

平成30年4月2日(月)、ようやく生活介護事業所とともが開所となりました。

慌ただしく開所の準備をしているところですが、今回はとも建設のアレコレをお伝えします。

ともを建設する上で一番大事にしたポイントは「福祉事業所らしくない」ということです。そして成人の皆さんにご利用いただくため、大人っぽさも意識しました。

そのため外壁や家具はダークブラウンを中心に揃え、カーテンやトイレの壁紙にはともイメージカラーであるグリーンを使っています。特殊浴槽と一般浴槽それぞれホテルのお風呂をイメージして設計士さんをお願いしました。

無理なお願いはかりだったので設計士さんをほとんど困らせてばかりでしたが、たくさんのお願いがつまって、無事に完成しました。とても素晴らしい仕上がりになっております。皆さん一度、ともへ遊びに来てください!

